

がんセンターNEWS

Aichi Cancer Center News



基本理念

私たちは患者さんの立場にたって、最先端の研究成果と根拠に基づいた最良のがん医療を提供します。

The mission of Aichi Cancer Center is to provide patients suffering from cancer with compassionate care and the best treatment based on evidence and leading-edge cancer research.

病院機能評価の認定を更新しました



当院では、基本理念「私たちは患者さんの立場にたって、最先端の研究成果と根拠に基づいた最良のがん医療を提供します。」に基づき、医療の質の向上、安全性の確保、療養環境の整備などに努めてきました。

平成16年9月27日に財団法人日本医療機能評価機構の評価認定 (Ver4.0) を受け、平成21年度にVer6.0での認定、平成26年度に最新の評価項目による認定を受けました。

評価の内容は、

- ①患者中心の医療の推進
- ②診療・ケアにおける質と安全の確保
- ③チーム医療による診療・ケアの実践
- ④良質な医療を構成する機能
- ⑤理念達成に向けた組織運営

であり、これらについて、標準的な水準以上に達していると評価されました。

今後とも、患者さんの立場に立ち、更に質の高い医療の提供と安全で安心できる病院を目指して努力してまいります。

～病院機能評価とは～

病院機能評価は、病院が組織的に医療を提供するための基本的な活動（機能）が、適切に実施されているかどうかを評価する仕組みであり、評価調査者（サーベイヤー）が中立・公平な立場にたって、所定の評価項目に沿って病院の活動状況を評価します。評価の結果明らかになった課題に対し、病院が改善に取り組むことで、医療の質向上が図られます。

50周年特別企画 ～がんセンター今昔～

第7回

愛知県がんセンターは今年度、開設50周年を迎えました。この節目にあたり、センターOBの先生方に在職当時のエピソードとセンターのこれからについて語っていただきます。第7回は加藤知行中央病院名誉院長です。

私がセンターに赴任した昭和48年は開院して8年ほどが経ち、症例数も増えてきて、ようやくがんの治療成績を他の医療機関と同じように5年生存率で話ができるようになった時期であり、「日本の3大がん病院の一つであること」が職員の合い言葉でした。医局には開院以来の若い先生が沢山おられ、夜の12時を過ぎても多くの医師がいました。

赴任するまでは大学でがん医療に携わっていましたが、センターの手術を見た時はカルチャーショックでした。特に、頭頸部外科と乳腺外科の手術を見た時は目から鱗で、これが本当のがんの郭清だと感動して、これを大腸がんの手術に採り入れることを目標としました。今思い返しても懐かしい時代です。

病院長になった年に地方公営企業法全部適用となり、翌年には新設された病院事業庁の管理となりました。それまであった経営改善推進委員会の外部委員の先生からは「少ない医師数でよくやっているな」と同情され、事業庁になってからは他の県立病院の応援も要請されてスタッフは大変だったと思いますが、院長として大過なく勤めることが出来たのもスタッフの献身、協力があったからこそと感謝しています。

県下にごん専門病院はセンターしか無くてがん患者さんがセンターに集中した時代から、今では2次医療圏に1つずつがん拠点病院が認定され、がん患者さんの7割は“がん”と名の付いた病院に分散して掛かる時代になりました。

私は大腸がん外科治療を通して、センターのがん診療を日本・世界に通用するものを目指すと共に、日本・愛知県のがん診療レベルをセンターと同様に引き上げることがセンターの義務だと考えて努力してきたつもりです。しかし、残念ながらまだ国内全ての病院が同じレベルのがん診療をしているとは言えません。

都道府県がん診療連携拠点病院としてセンターの目指すところをどこに求めるか。ただ学会で研究成果を発表するだけでなく、全ての国民・愛知県民が質の高いがん医療を受けることが出来るように、地域の医療機関と連携してがん診療を行い、知識を共有するなどの活動と、その中でセンターでなくてはできない医療と臨床研究を行うことを期待します。



愛知県がんセンター中央病院 名誉院長

加藤 知行

昭和48年 がんセンター外科第三部
(現 消化器外科部)
平成16年 がんセンター病院長
平成17年 がんセンター中央病院長
平成20年 総合上飯田第一病院外科
平成24年 医療法人愛生会 理事長
平成26年 社会医療法人愛生会 理事長
瑞宝小綬章受賞



総合防災訓練実施



緊急地震速報の放送



非常階段からの避難

日中に震度6弱の大規模地震と、それに伴う院内の火災の発生を想定した総合防災訓練を11月12日(水)に実施しました。

今年度は前年度に引き続きシェイクアウト訓練の実施、エレベーターが停止したことによる救出訓練及び避難誘導を行いました。

また、消防署協力による「煙道体験ハウス」で、火災の際の煙による視界の悪さを体感でき、防災訓練に参加した人々は貴重な体験をすることができました。



エレベーター停止の際の救出



煙道体験ハウス

細胞増殖のスイッチが形成される仕組み

研究所～腫瘍医化学部～

細胞の表面を電子顕微鏡で観察すると、「一次線毛」と呼ばれるアンテナのようなものが突き出していることが分かります。細胞1つをリンゴの大きさと例えると、一次線毛はリンゴの軸のように生えています(図1)。近年になって、この一次線毛が細胞の増殖を決定するスイッチとして働いていることが分かってきました。一次線毛が無いと細胞は増殖することができ、一次線毛が生えたと増殖は停止します(図2)。一次線毛が正常に形成されないと、細胞の増殖が適切にコントロール出来ないため腎臓の機能不全を起こす嚢胞腎などの疾患につながります。さらに、がん細胞の異常な増殖の原因とも関係があり、一次線毛が形成される仕組みを解明する必要に迫られています。

腫瘍医化学部はこれまでの研究で、増殖している細胞ではトリコプレインというタンパク質がオーロラAというリン酸化酵素の働きを亢進させることによって一次線毛の形成を抑えていることを報告してきました(猪子ら、ジャーナル・オブ・セル・バイオロジー誌、2012年)。そこで今回、一次線毛が形成される際には、これらタンパク質が分解される必要があると見定め検証したところ、「CRL3-KCTD17」という酵素がトリコプレインの分解を促進し、その結果として一次線毛が形成され細胞増殖を停止することを突き止めました(図2)。研究成果の一部は、10月1日付けの英科学誌「ネイチャー・コミュニケーションズ」(電子版)に掲載され、中日新聞(10月2日)でも取り上げられました。今後は、この酵素を制御する遺伝子を調べ、がんとの関係を明らかにしたいと考えています。

このように私たちは、がん細胞の特徴の一つである無秩序な細胞増殖の原因を突き止める研究を進め、将来的にがんの新たな診断法や治療法の提案・開発につなげていきたいと考えております。

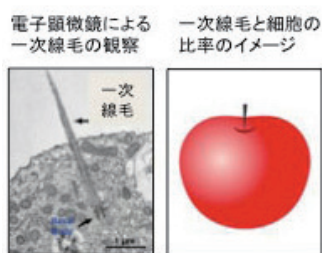


図1：一次線毛の電子顕微鏡写真(左)とイメージ(右)

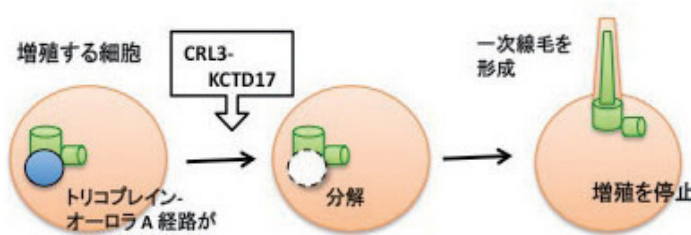
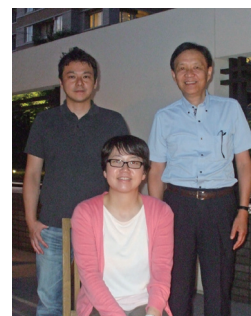


図2：一次線毛の形成と細胞増殖の関係



左から 笠原広介 研究員(論文筆頭著者)、江良沙穂リサーチレジデント(共同著者)、稲垣昌樹部長(責任著者)

★公開講座案内

日時：平成27年2月22日(日) 14:00~16:00

(開場13:30)

場所：ウインクあいち(愛知県産業労働センター)

5階 小ホール2

名古屋市中村区名駅4丁目4-38

講演：泌尿器科のがん治療

(主に前立腺がんに対する治療戦略)について

1 前立腺がんの疫学と予防

2 前立腺がんの診断と治療

～外科治療と内分泌治療～

3 前立腺がんの放射線治療

その他：無料・事前申込不要



★開設50周年記念国際シンポジウム案内

日時：平成27年3月14日(土)

9:00~17:50

場所：愛知県がんセンター

国際医学交流センター

名古屋市千種区鹿子殿

1番1号

テーマ：がん細胞の薬剤耐性

獲得機構とその克服戦略

言語：英語

その他：無料・事前申込必要

※Webにて参加受付をしておりますので、詳しい情報は下記

URLをご覧ください。

http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/50th_anniv/index.html



問い合わせ先 愛知県がんセンター運用部経営戦略室 広報担当

Tel 052-762-6111 (内線2511)

“患者満足度調査”から見えること ～今後の改善に向けて2014～

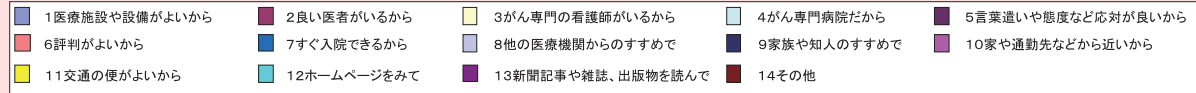
愛知県がんセンター中央病院では、患者さんにより快適なサービスを提供するため、外来患者さんや入院患者さんのご協力をいただき、平成26年10月1日から2日にかけて「患者満足度調査」を実施いたしました。その結果をお知らせいたします。

入院部門

総合評価 平均 87.4点 (100点満点中)

配布枚数: 300名
有効回答数: 212名 (70.7%)

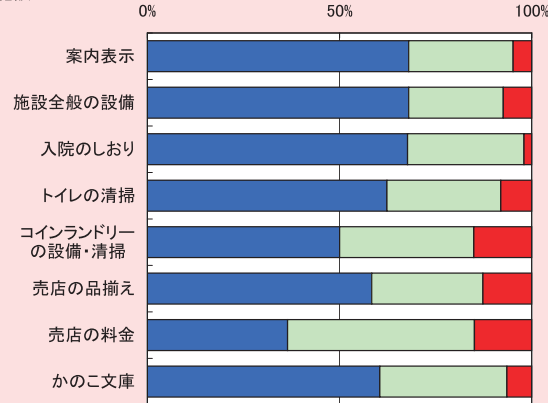
(1) 当院の選択理由



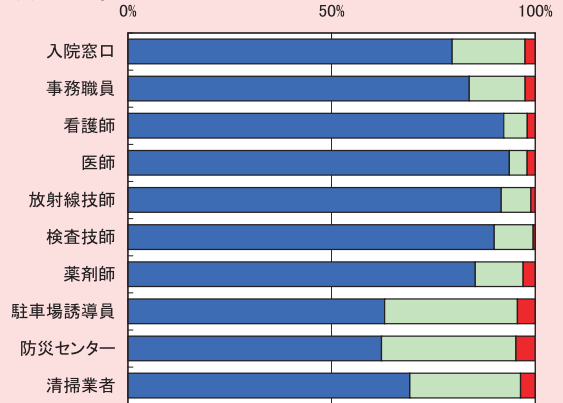
(2) 院内環境

非常に満足・満足 (Blue), どちらともいえない (Green), やや不満・不満 (Red)

1. 施設



2. スタッフの対応

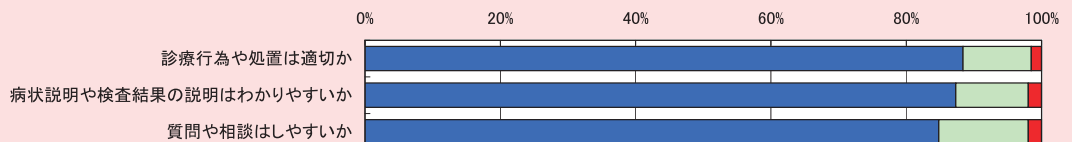


3. 病室環境

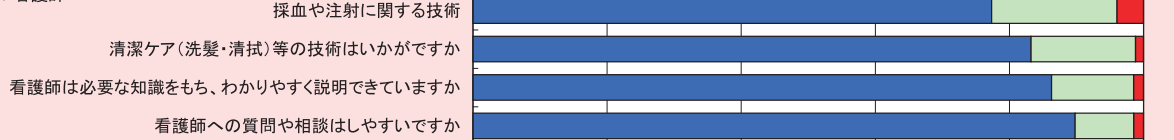


(3) 診療サービス

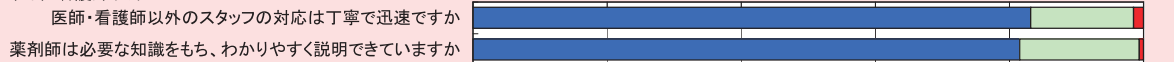
1. 医師



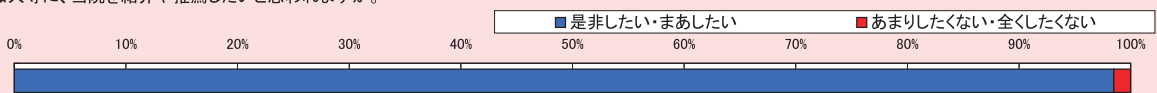
2. 看護師



3. 医師・看護師以外



●知人等に、当院を紹介や推薦したいと思われませんか。

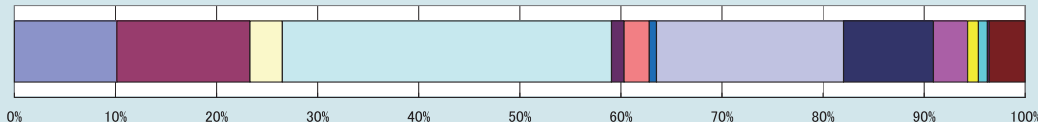
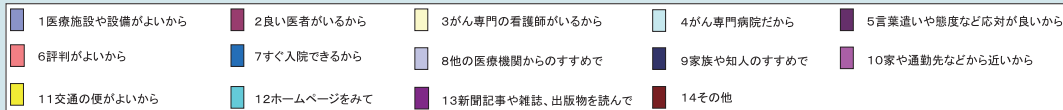


外来部門

総合評価 平均 85.5点 (100点満点中)

配布枚数: 300名
有効回答数: 251名 (83.7%)

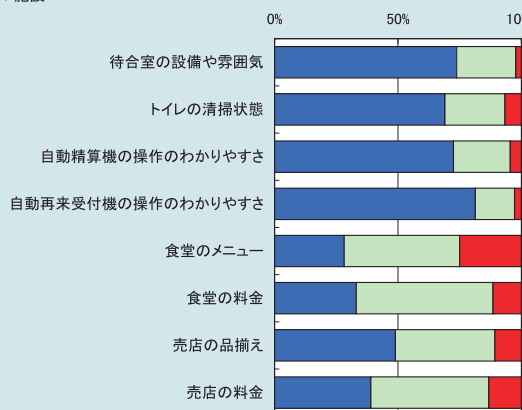
(1) 当院の選択理由



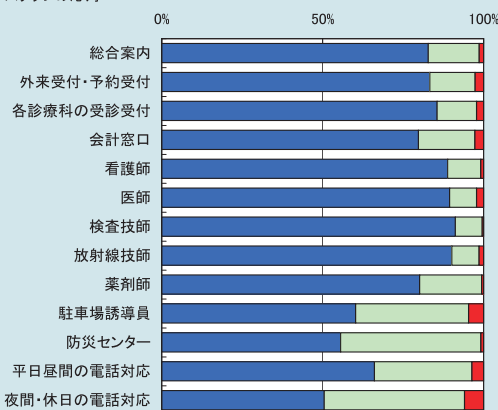
(2) 院内環境



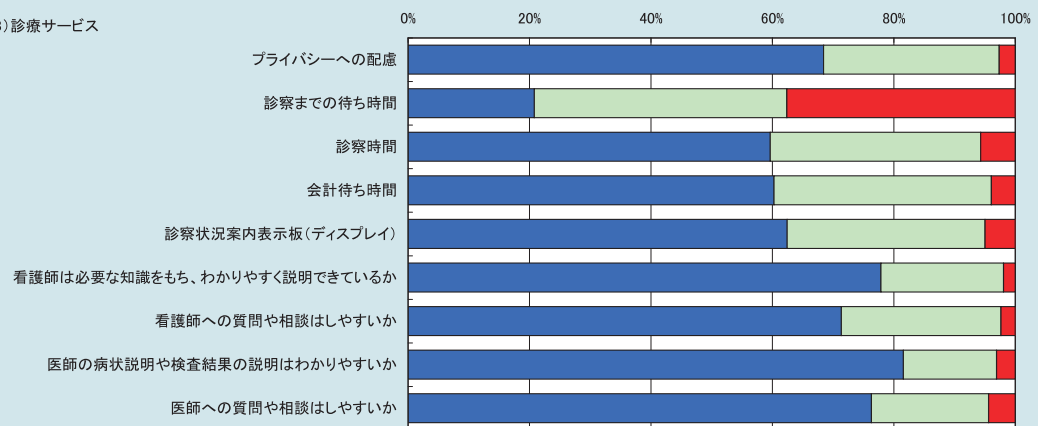
1. 施設



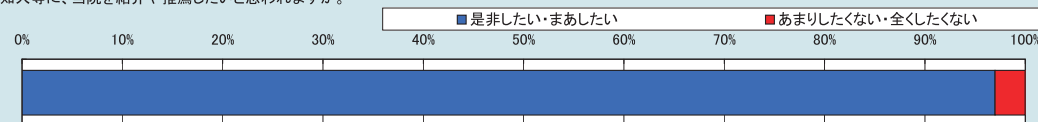
2. スタッフの対応



(3) 診療サービス



● 知人等に、当院を紹介や推薦したいと思われますか。



患者満足度調査にご協力いただきありがとうございました。接遇面、診療サービス面において、医師や看護師、技師、受付等の患者さんに直接接する職種について入院、外来ともに概ね高評価をいただきましたが、昨年よりやや低下しており、今後もより一層の改善に取り組んでまいります。

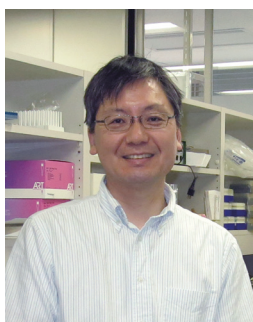
改善すべき点として多くの声があげられたのは、入院中の患者さんについては食事・トイレ・風呂、外来患者さんについては待ち時間、接遇面でした。食事については新メニューの導入や朝食のボリュームアップ、トイレに関しては改修工事を行い環境改善に努めております。外来の待ち時間の改善に関しては、待合室にフリー雑誌を設置するなど現在対策を検討しております。

今後も患者さんにごんセンターを選んでよかったと実感していただける診療サービスの提供に、職員一同取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(患者サービス委員会委員長 亀島里美)

最初のヒト腫瘍ウイルスの発見の物語

研究所 ～感染腫瘍学部～



感染腫瘍学部・室長

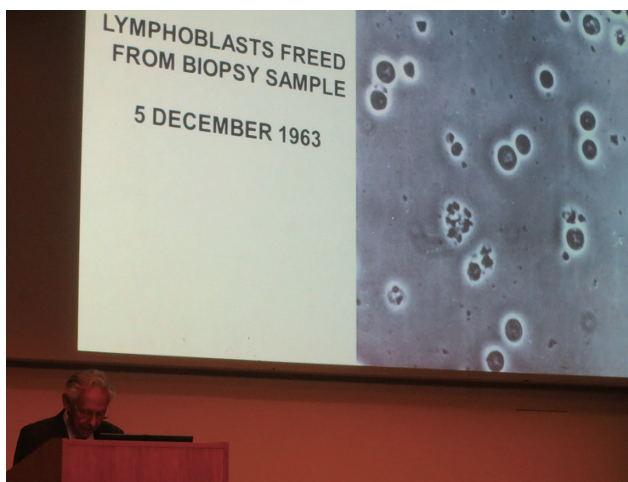
神田 輝

私たちが研究対象としているEBウイルスは、発見者であるエプスタイン・バー両博士の頭文字から名付けられました。EBウイルスは日本人に多い胃がんの発症への関与も疑われています。今回は、EBウイルス発見の経緯についてご紹介します。

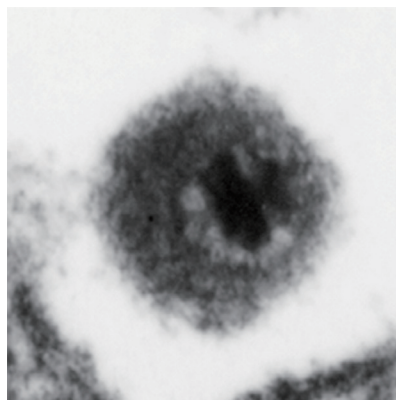
話は今から約50年前にさかのぼります。英国アイルランド出身の外科医であるデニス・バーキット博士は、長年、ウガンダで地域医療に携わっていました。彼は熱帯アフリカ地域において小児の顔面・頸部に腫瘍（後にバーキットリンパ腫と命名）が多発すること、そしてこの腫瘍は気温が高く、降水量が多い地域でのみ発生することに気づきました。彼は一時帰国した1961年にロンドンの病院でその腫瘍について講演しました。その講演を偶然聴講したのが、病院付属の研究所で動物腫瘍ウイルスを研究していたトニー・エプスタイン博士です。ヒトでも同じような腫瘍ウイルスが存在するのではないかと考えていたエプスタイン博士は、バーキット博士の講演を聴き始めて5分もたたないうちに、自分が求めていたものが、まさにそこにあることに気づきました。エプスタイン博士は、すぐにバーキット博士に共同研究を申し込み、ウガンダからロンドンへ腫瘍サンプルを空輸する手はずを整えました。そして

送られてきたサンプルから、世界初のヒト腫瘍ウイルスを発見したわけ

です。バーキット博士の緻密な臨床症例の分析、バーキット博士とエプスタイン博士の邂逅、航空便の発達という時代背景、どれか一つでも欠けていたら、このウイルスの名前は別の名前になっていたでしょう。



EBウイルス発見50周年記念シンポジウム（英国オックスフォード、平成26年3月）で講演するエプスタイン博士



EBウイルス粒子の電子顕微鏡写真
(神田撮影)
ウイルス粒子の直径は約150ナノメートル
(0.15ミクロン)

研究員の紹介

遺伝子医療研究部は、悪性腫瘍の病因・病態の解明とその臨床応用を目指しています。遺伝子の異常が、悪性腫瘍の原因や進展・予後に大きく関与すると考え、悪性腫瘍と遺伝子の異常との関係に重点をおいた研究を行っています。現在、都築室長のもと、片山研究員、高原リサーチレジデント、垣内大学院生、春日井技師が、悪性リンパ腫のマウスモデルや、ヒト正常中皮細胞を用いた腫瘍モデル等を用いて、腫瘍化のメカニズムの解明に取り組んでいます。平野技師と佐藤・石橋両実験補助員がそれらの研究を支えています。

研究所 遺伝子医療研究部



後列左から：佐藤征子実験補助、片山幸研究員、垣内辰雄大学院生、高原大志レジデント
前列左から：春日井由美子技師、都築忍室長、平野京子技師

適正かつ安全な輸血療法のために

中央病院 ～輸血部～



輸血部・部長
木下 朝博

【輸血療法とは】

●血液中の赤血球や血小板などの細胞成分や、血漿成分に含まれる凝固因子などの蛋白質成分が、量的に減少・機能的に低下した時に、その不足した成分を補充することにより、臨床症状の改善を図る治療法です。

【輸血部の沿革】

●がん専門病院として設立時より、がん治療に不可欠な輸血検査と輸血製剤の一元管理を担って参りました。輸血用血液製剤が「特定生物由来製品」として法的に明確に位置づけられ、医療環境の変化へ遅延のない対応を進め、今日に至ります。

【輸血部の業務】

●輸血部では、「良質で安全な医療」の提供のため、病院各部門と協力し、「適正かつ安全な輸血療法」に必要な、下記の業務を遂行します。

- ・ 輸血製剤の確保・保管・管理
- ・ 輸血検査の実施
- ・ 緊急輸血体制の確立
- ・ 自己血輸血の推進
- ・ 院内輸血療法の指導
- ・ 輸血委員会の運営
- ・ 造血幹細胞採取および移植への協力
- ・ 日本赤十字血液センターとの協力

【特定生物由来製品としての輸血製剤】

●法律により、①適正使用、②患者さんへの説明、③使用記録の作成・保存、④情報の提供、⑤副作用・感染症報告が、定められています。

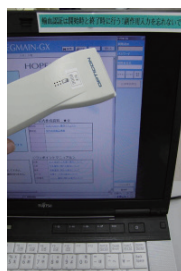
【患者さんへのお願い】

- 血液型（ABO・Rh型）検査結果をお知らせしますので、ご確認ください。
- 輸血に際して、輸血製剤のリスクと有効性・安全性・適正使用に関する説明内容を、ご理解の上、ご同意下さい。
- 輸血開始時、患者さんのお名前・血液型・輸血製剤が一致することを、スタッフと共にご確認ください。
- 輸血中・後に体調異常を感じた場合は、遠慮なく速やかに、お知らせ下さい。
- 輸血後感染症マーカー検査カードの内容をご確認ください。



【輸血部スタッフ】

臨床検査部技師の全面的協力により、24時間体制で万全を期しています。迅速検査や不規則抗体検査など専門的な判断・経験を要する局面においては、熟練した輸血部技師の手腕が不可欠です。



【コンピューター端末とバーコードリーダーによる電子認証】

電子カルテ機能を活用し、輸血業務の電子化（輸血の依頼・製剤・検査検体と患者との認証の電子化、輸血実施入力、副作用報告のオンライン化を行っています。



【自動輸血検査装置】

検査の効率化・適正化を進めます。

診療医の紹介

中央病院 薬物療法部

薬物療法部は、抗がん剤治療を専門とする診療部門です。胃がん・大腸がん・食道がんといった消化管がんを中心に、その他原発不明がん・胚細胞腫瘍がん・腎がん・乳がん・頭頸部がん・軟部肉腫などの幅広い固形がんに対する全身化学療法を行っています。疾患に対する深い知識と経験のみならず、多くの有望な薬剤についての知識や経験の上でこれらを適切に使用することが必要となります。また、副作用への対応にも十分配慮し、治療を行うことを常に心がけております。さらに当部では、新たな治療法の開発を目指した治験や臨床試験、臨床研究にも積極的に取り組んでいます。



左から：門脇重憲医長、谷口浩也医長、室 圭部長、舛石俊樹レジデント、小森梓レジデント、成田有季哉レジデント、野村基雄レジデント、安藤正志医長、宇良敬医長

病院ボランティアさん募集中

がんセンターの敷地内を歩きますと、花壇で季節のお花が咲いているのに気がつくと思います。このお花は「庭園ボランティア」さんが手入れをし、皆さんの癒しと和みになっています。

他にも当センターでは、「外来受付のご案内」「写真等の展示」「図書の貸し出し」「車椅子の整備」等、多くのボランティアの方に活躍していただいています。

ボランティア活動に興味のある方は、運用部の管理課総務グループまで、お気軽にお尋ねください。Tel 052-762-6111 (内線2201)



パンジーを植えました！

医療連携室のご案内

対応時間	月曜日～金曜日 午前9時00分～午後7時00分
電話	052-764-9892 (直通)
FAX	052-764-9897 (24時間稼働しております。)
ホームページ	http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/ 中央病院トップページ右手にある「医療連携」のバナーをクリックしてください。利用の手引や様式など、詳細を掲載しております。

外来診療案内

受付時間	午前8時30分～午前11時30分 (自動再来受付機による受付は午前8時からできます。)
休診日	土・日・祝日、年末年始
診療科	消化器内科、呼吸器内科、循環器科、血液・細胞療法科、薬物療法科、頭頸部外科、形成外科、呼吸器外科、乳腺科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、婦人科、皮膚科、眼科、放射線診断・IVR科、放射線治療科、緩和ケア科 (精神腫瘍科・リンパ浮腫外来・ペインクリニック)
外来診療担当医一覧	毎月1回、月初めに更新しています。詳しくはホームページをご覧ください。
休診情報	お電話またはホームページでご確認ください。

※再診予約制：診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。052-764-2911 (直通) 午前9時～午後5時 (土・日・祝・年末年始を除く)
 ※セカンドオピニオン外来は、全科で対応しています。(完全予約制・自由診療)
 ※精神腫瘍科は、予約のみの対応です。

交通のご案内

★公共交通機関のご案内

地下鉄利用 名城線「自由ヶ丘駅」2番出口から徒歩7分
 市バス利用 基幹2系統・星丘11系統「千種台中学校」下車徒歩4分

★車でのアクセスのご案内

◎一般道路

本山交差点から北へ約10分、平和公園の北西

◎高速道路

東名高速道路「名古屋IC」から西へ約15分
 名古屋高速「四谷出口」から北へ約10分

※詳しくはホームページをご参照ください。



愛知県がんセンター Tel.(052)762-6111 Fax.(052)764-2963
 〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号 ホームページ <http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>

愛知県がんセンター

検索